

2022 獨協医科大学 (医) 一般選抜 (1/29)

1

A

問 1 (1) ② (2) ③ (3) ① (4) ② (5) ① (6) ④

問 2 (7) ③ (8) ③

【解説】

(7) ①は ¶4、②④については ¶5 に記述がある。

B

問 1 (9) ③ (10) ① (11) ④ (12) ④ (13) ③ (14) ② (15) ④

問 2 (16) ② (17) ① (18) ③

問 3 (19) ④ (20) ③

【解説】

(19) 最終パラグラフの記述を根拠に解答する。

2

A (21) ④ (22) ③ (23) ②

B (24) ②

C (25) ⑤ (26) ⑧ (27) ① (28) ③ (29) ⑦ (30) ②

【解説】

(24)

選択肢ア.の a wrapper と選択肢カ.の the wrapper は「新情報 / 旧情報」の視点より、アがカに先行することは予想しやすい。選択肢エ.の内容はかなり抽象度が高く、英語の論理展開における「抽象→具体」の流れから、この選択肢が最後に来るとは考えにくい。上記の方法で選択肢を絞っていくと正答に辿り着ける。

3

- [1](31) ④ (32) ⑥ (274859613)
[2](33) ⑦ (34) ⑥ (527948631)
[3](35) ③ (36) ⑧ (573219846)
[4](37) ③ (38) ① (783549126)
[5](39) ⑥ (40) ⑧ (316497825)

並べかえた英文は次の通り。

- [1] The new material developed for camping tents offers much better protection from severe coldness.
[2] The job pays rather well for the little time t takes.
[3] This is the first class reunion in more than ten years that she has attended.
[4] Seismologists had warned the authorities of the coming earthquake long before it actually took place.
[5] Regrettably, there are some areas in which people are imprisoned for a crime of which they assert their innocence.

【解説】

[3] This is the first time in ~ years that S has Vpp 「S が V をするのは～年ぶりだ」

※ 「経験」を表す表現なので S has Vpp と必ず完了形を使う。

4

- (41) ① (42) ② (43) ③ (44) ④ (45) ②
 (46) ② (47) ④ (48) ③ (49) ③ (50)④

【解説】

(41) used to V / would (often) V の違いをしっかりと覚える必要がある。

※would (often) 「以前は V したものだ」は状態動詞と一緒に使えない。

×: I would belong to the Rotary Club.

○: I used to belong to the Rotary Club.

※used to / would (often)とも「はっきりした回数」を述べる文に使えない。

×: We used to[would often] visit Italy four times.

○: We visited Italy four times.

ただし、「年に 2 回行っていたものだ」のような繰り返しを語る場合は合計の回数がはっきりとしなくなるので使える。

○: We used to[would often] visit Italy twice a year.

(42) nor は副詞、接続詞いずれとしても使えるが、neither は副詞として使う。

(43) 本動詞は were なので、準動詞の選択肢を選ぶ。

(44) object to O = be opposed to O = oppose O 「O に反対する」

(45) S lies in O 「S の本質は O にある」

(50) 過去の事象に対する反実仮想を表す日本語文に合わせて、仮定法過去完了の主節部分となる選択肢を選ぶ。